

令和6年度 第3回 学校運営協議会（議事録）

I 日 時 令和7年2月13日（木） 10:00 ～ 12:00

II 場 所 静岡県立浜松湖東高等学校 小会議室

III 出席者（委員、敬称略）

新井立夫（文教大学教授、会長）、山口権治（第一学院高等学校顧問、副会長）

村松俊司（神久呂協働センター所長）、神間智博（本校同窓生）

松浦洋一郎（本校後援会長）

欠席者

鈴木恵子（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部理事長）

本校職員

渥美真人（校長）、猿田かおる（副校長）、萩原英城（教頭）、諸井康恵（事務長）

IV 内 容

1 校長挨拶

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の御意見が、令和7年度学校経営計画に反映されることになります。

よろしくお願いいたします。

2 議事（進行：副会長）

(1) 今年度の本校教育活動報告（教頭から説明）

ア 教務課

- ・生徒の学ぶ習慣や計画性を育成するために、テスト前の情報提供を classroom で余裕をもって配信する等を行った。
- ・教育課程の見直しについて、検討委員会を中心に議論を進めている。
- ・観点別評価導入により、複雑化している成績処理の管理を適切に行うため、成績処理マニュアルを教員内で周知し、ミスの無いよう尽力している。

イ 生徒課

- ・生徒の基本的な生活習慣の確立や、交通安全の徹底に力を入れた。
- ・文化祭や体育祭等の生徒会行事については、生徒会の生徒が主体的に企画・立案できるよう、教員側が指導・支援できた。
- ・現在、部活動1年生全員加入の見直しについて検討している。

ウ 進路課

- ・生徒の自己理解と社会への視野拡大のため、進路講演会等の行事を実施できた。
- ・進路室・進路資料室の環境整備を全面的に実施し、清潔で整理された中で進路学習ができるようになった。
- ・入試制度改革に対応するため、大学見学等の体験型行事の導入を進めている。

○部活動の地域移行について、いずれ学校現場から部活動が無くなってしまうのではないかと危惧している。部活動は社会性、同僚性、協調性、異世代交流、帰属意識等々、教育現場での好影響は計り知れない。

○部活動で培った人間関係は、何十年も経った今でも続いている。部活動の経験が職業や人生に大きな影響を与えている。

（教頭）同感である。なお、浜松市の中学校では、令和8年度以降に部活動の地域移行が本格的に進む予定であると聞いている。今後は部活動を経験していない生徒が本校に入学してくることになる。過渡期を迎えるので、今後も情報収集に努めたい。また、本年

度に部活動希望制を導入した高校（西部地区）に聞いたところ、部活未加入者は数人だけとのことで、部活動離れが進んでいなかった模様である。該当校による分析によると、生徒の部活動への所属意識や、部活動実績等が調査書に反映される等の要因が未加入者数の少なさに反映されているとのことである。高校段階において、部活動の地域移行の影響は喫緊の問題にならないかもしれないが、今後の状況に注視していきたい。

(2) 探究的活動について（校長より説明）

- ・生徒有志が参加するフェアトレードとコトバショ（小中学生への学習支援）については、精力的に活動を続けており、コトバショにおいては、本年度、2年ぶりに県教育長賞を受賞した。ただし、限られた予算内での活動であるため、生徒から「フェアトレードの学びで交流をしているラオスを訪問したい」と直訴されているが、実現することは難しいのが現状である。現在、予算の工面を熟慮中である。
- ・全生徒が実施する「総合的な探究の時間」については、来年度より2学年で新たに「エンジン」を導入する。これは、地元企業と連携した学びで、企業の方々と対面で交流できるプログラムであり、大企業とオンラインでの指導を受けてきた本年度のコーポレートアクセスとは違う長所がある。
- ・来年度は学級減（1学年7クラス→6クラス）となり、今後、教員数が段階的に減っていくことになる。本校は苦しい局面を迎えていくが、だからこそ、本校の特徴である探究活動をより充実させたいと考えている。学校組織・分掌組織を再編し、新たに「探究課」を立ち上げる予定である。

○有志による探究活動は、これだけ積極的に活動し、かつ栄誉ある受賞も残しているにもかかわらず、予算不足により活動が拡張できないのは心苦しい。予算工面策を引き続き検討していただきたい。

(3) 学校評価アンケート集計結果（副校長より説明）

- ・保護者の結果を昨年度と比較すると、多くの項目でポイントを下げているが、令和4年依然と比較すると例年並みもしくはポイントを上げている項目も多い。気になるのは「Eわからない」という回答が増えたこと。「子どもが学校のことを話さないの」という意見もあった。
- ・生徒の結果はおおむね昨年並みであった。なかでも「学校の進路指導に満足している」の項目では6ポイント上昇している。学年別の結果を見ると、1年生で肯定的評価が高く、学年が進むとポイントを落としている。また、2年生の肯定的評価の数値が凹む傾向は例年見られる。「私の学校生活は充実している」と回答した生徒が91%というのは高い数値だと考える。生徒一人ひとりの「充実」の内容が充実していくよう学校全体で取り組んでいきたい。

○昨今は保護者や地域からの苦情が多いと思うが、「苦情は学校へのアドバイス」と受け止めていただきたい。苦情は学校への期待の裏返しである。

○「保護者の子離れ」は今日的な日本の課題となっている。様々な指導・支援を継続的に取り組むことが重要である。

(4) 学校関係者評価（副校長より説明）

- ・学校自己評価については、達成状況の数値が成果目標を超えている項目については「A」とした。
- ・学校関係者評価はあらかじめ各委員の方々から提出していただいたものを集約した。そちらの資料も参考にさらにご意見等いただきたい。

○世の中では「読書離れ」「活字離れ」が急速に進行する一方、タブレット等で読書をする習慣も広がってきているようだ。読書の意識や概念が変わってきているので、評価項目の設定を再検討したほうが良いと思う。

(校長) おっしゃる通りである。現在、本校では学校図書館メディアの導入に向けて準備をしているところである。また、既存の図書館の位置が生徒の移動の動線から離れたところにあるため、今後も工夫を講じながら、より良い読書指導をしていきたい。

○集計結果をみると、近年、生徒間の人間関係づくりが難しくなっていることが読み取れる。いくら先生方が頑張っても解決が難しいことが多いだろう。

(校長) おっしゃる通りである。外部機関の取り組みを導入するなど、実態にあった対応をしていきたい。

(5) 意見交換

○別紙「社会資源（学校風土）と抑うつ傾向との相関関係」をご覧いただきたい。資料から、社会資源が高いほど抑うつ傾向は減少する傾向があることが読み取れる。このことを参考にしてもらえると良いと思う。

○実力のある大学から指定校推薦を多くもらえると良いが。その際、高校側からの要望を該当大学に伝えることも大切である。

○最近の若年層は、競争する場面を体験していないようだ。就職先で困難に直面すると退職してしまう新卒者も多い。困難を乗り越える力を探究学習で身に付けさせることが学校の売りとなると良いかもしれない。最近、「厳しいことへの鍛錬」について、経産省が言及している。

○学校の設備・施設について、中長期的課題と喫緊の課題を仕分けしつつ、限られた予算で対応していくしかないと思う。

○一人ひとりの生徒が、それぞれの熱中する場があるのが理想である。それは、学習でも部活でもフェアトレードでも何でもよい。そして元気のない子がいたら、そのことに気づき、声掛けしてあげる活動が重要である。

○最近の小中学校では、心の余裕がない家庭、敵と味方の構造をつくる保護者、発達系あるいは愛着系に困難を抱えている児童・生徒が増加傾向である。これは今後、高校にも波及していくだろう。

○防災活動において、高校生は世間のインフルエンサーになり得る存在である。「浜松市に救急車は何台あるか知っている？」の問いかけから始まる防災教育から、高校生が防災を自分事と捉えてくれることもある。

○先生方のやるべき仕事が肥大化している。体調管理にご留意いただきたい。

(校長) 貴重なご意見を多数いただき感謝申し上げます。これから始める探究活動においても、教員には「まずは自分が楽しんで」と伝えている。教員も意欲的に仕事をしていて、相談室担当のある教員は「入学者情報を早い段階で収集するために、3月末に中学校訪問を新たに企画して良いですか？」と前向きな提案をしてくれている。本校の生徒、教員、地域社会すべてがウェルビーイングな状態になれるよう尽力したい。

V その他

次回の第4回学校運営協議会は令和7年3月10日（月）10:00～12:00を予定し、令和7年度学校経営計画の基本方針（案）を協議する。